

## 金沢美術工芸大学研究データポリシー

### 1. 目的

金沢美術工芸大学（以下「本学」という。）は、大学の理念に記すように、「ものづくりの精神」を尊び、理論と技術の彫琢を通して、芸術が社会に果たす役割を自ら探し行動する人材を育成し、世界における創造の機会の拡大と多様化に資するため、知と創造の拠点となることを目指している。

研究活動の過程で得られた研究データは、研究の成果であると同時に芸術創造の成果となる貴重な財産といえる。また、研究の公正性を担保する上で重要となる。

以上の理念から、本学における研究データの管理及び公開の原則を定めることを、本ポリシーの目的とする。

### 2. 研究データの定義

本ポリシーが対象とする研究データは、本学における研究活動を通じて研究者が収集・生成した情報をさし、デジタル／非デジタルを問わない。

### 3. 研究データの管理等

本学と本学の研究者は、自らが収集・生成した研究データの管理を行う権限を有するとともに、関係する法令、契約、倫理規範等に従って適切に管理する責務を有する。

本学は、研究データの最終的な管理責任を負うとともに、研究データ管理のための支援環境を整備する。

本ポリシーが対象とする研究者は、本学の学長、教職員、研究員、学部・大学院の学生等、並びに本学で研究を行う共同研究者等、本学において研究活動に従事する者をいう。

### 4. 研究データの利活用

本学は、前項を踏まえ、特段の定めがある場合を除き、研究データを可能な限り社会に公開してその利活用を促進する。

### 5. 大学の責務

本学は、研究データの管理、公開及び利活用を整える。

### 6. ポリシーの改訂

本ポリシーは、社会や研究分野の状況の変化に応じて、適宜、見直しを行うものとする。

以上

### 附 則

このポリシーは、令和8年4月1日から適用する。